



新年の挨拶 有松まちづくりの会会長 竹田嘉兵衛

明けましておめでとうございます。

皆様にはさわやかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

本年は“寅年”。寅のように困難を乗り越えて目的に向かってまっしぐらに走る年になりますよう祈念いたします。

この2年間、日本遺産に認定されながら、コロナのために多くのまちづくりのイベントが計画通りには実施できませんでした。今年こそ、今までできなかった素晴らしい計画を再度立案し、日本国内はもちろん世界中から多くの人々が訪れるようなまちづくりをしたいものです。

400年を越える歴史と町並み、そして藍染の紋りが風にゆれる町有松で、夏には現代美術の先端に行く「国際芸術祭あいち2022」も開催されます。新旧の美の対比から有松の未来を考え、寅のように前を向いてしっかりと歩んで行きたいものです。



「秋の有松めぐり」終わる

パンフレット

10月1日から2カ月間に渡り続けられた「秋の有松めぐり」が11月末で終了しました。4年目を迎えた名鉄による“秋の有松キャンペーン”、今年は初夏にも実施されましたが、コロナ禍のため観光客誘致の目標を十分に達成することができませんでした。秋の取り組みは、緊急事態宣言の解除もあり、有松に久し振りに賑わいをもたらしてくれました。

毎週土・日曜日に建物公開をしている岡家住宅での「まちなみガイドツアー」（一日4回・各50分程）には期間中約250名の参加があり、その内100名強が「有松おさんぽきっぷ」利用でした。また、「有松絞り体験きっぷ」（手ぬぐいの絞り体験）利用者も100件以上ありました。「初夏に比べると倍以上では」と、担当の方は仰っていました。



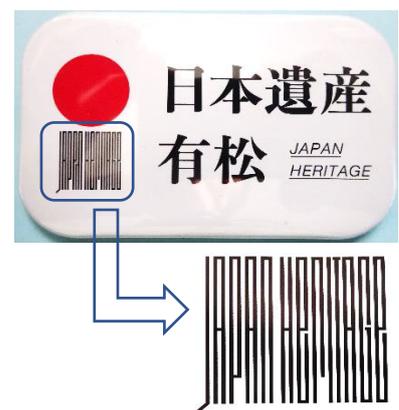
知っていますか？ 日本遺産ロゴマーク

右のマークをご存じの方も多いのではないでしょうか。

令和元年(2019)に有松は日本遺産に認定されましたが、そのことを紹介するロゴマークとして使用されています。

これはグラフィックデザイナー佐藤卓氏が制作したもので、日の丸は日本を表し、その下の格子模様のように見える繊細な線の集合はJAPAN HERITAGE(日本遺産) の文字です。この線の集合はひとつの「面」を形成しています。つまり、日本の遺産を点から線へ、そして面で捉える「日本遺産」を表現しています。

(文化庁発行パンフレット「日本遺産」より)



有松まちづくりの会 役員会 (12月13日)

竹田会長から「有松の状況は他地区の方から羨ましがられている。有松の素晴らしい資産を将来に繋いで行くために、原点に戻って皆で活動していきましょう」との挨拶があった。2022年の活動として「福よせ雛」(2/20~3/21開催予定)「全国町並みゼミ東海ブロック大会」(秋に開催予定)などに全員で取り組んでいくことを確認し、「国際芸術祭あいち2022」(7月末~10月開催予定)にも協力していくことを申し合わせた。

有松天満社で結婚式 (12月4日)

天満社での結婚式を取材する機会を得ましたので、報告します。

天満社の知名度アップと収益確保のため、数年前から社殿で結婚式が行われるようになりました。コロナ禍で中断していましたが、10月と11月各1組ずつ行われました。適度に風通しのよい場所なので、感染防止に適した結婚式会場とも言えます。

式場準備は大変のようです。社殿に幕を取り付けたり、拝殿では色鮮やかな衣装を掲げたりしていました。参道の階段脇では提灯の取り付けがされていました。牛さんもおめかしです。



結婚式準備

定刻に関係者約30人が8台のタクシーに分乗して中広場に到着。新郎新婦を先頭に参道を登り拝殿へ。成海神社の亀垣禰宜により結婚式が厳かな雰囲気の中で進められていました。



神前結婚式の様子



指輪交換



有松天満社外観

《一口知識:神前結婚式とは》

昔は宮中で行われ、庶民に広がったのは大正天皇が神前で式を挙げてからと言われている。

有松あないびとの会 研修旅行 (12月7日)

有松あないびとの会では、例年ガイドの資質向上のため重伝建地区を中心に各地に出かけています。コロナ禍の中、令和2年は中止となりましたが、秋以降の感染状況改善で去年は実施されました。ただし、従来の観光バス利用を改め、現地集合現地解散で行われました。

行き先は、白壁・主税・榎木地区。有松と同じ名古屋市町並み保存地区です。"東区文化のみちガイドボランティアの会"の皆さんに案内していただきました。また、東区のガイドの皆さんと交流会も行われました。参加者の方から

- これをご縁にお付き合いができたらいいですね。
- 豊田佐助邸にあるガイドボランティアの会の活動拠点、うらやましく思いました。NPO法人になっていることなど見習うべき事がたくさんありそうです。

このような声をいただいたそうです。

見学風景と現地MAP→



有松天満社北道路開通（11月25日） 及びグランパスのぼり設置(12月9日)

米塚北交差点から東陵交差点(302号)間が11月25日に開通し、有松天満社北参道駐車場の利用に大変便利になりました。

この開通に合わせて12月9日に、天満社北側転落防止柵(右写真)にグランパスの幟(のぼり)8本の設置が、天満社とグランパスの関係者約10名の協働作業で行われました。8本なのはグランパスエイトに合わせてとのこと。また19日には、第3鳥居上り階段にグランパスから絞りのぼり旗4本も奉納されました。

なお、1月14日左義長でグランパスの応援旗や寄せ書き旗をお焚き上げするとのこと。

グランパスは今年クラブ30周年を迎えるに当たり、各地の商店街などで幟旗の設置を進めているそうです。多くの方に試合を見に来ていただくために・・・有松にも昨年グランパス君が訪れたご縁で、再び来ていただきました。別れ際に、「絞りまつりにまた来ます」との嬉しい言葉をいただきました。また、10月30日のルヴァンカップの優勝トロフィーを作業参加者に披露。直に持たせても下さいました。皆グランパスファンになりました。



幟設置作業風景

米塚北交差点



優勝当日の新聞記事と
トロフィー



有松・鳴海絞会館 資料室紹介

有松に来たら立ち寄っていただきたい施設の一つ。絞り技法紹介のパネル見学に合わせて、紹介ビデオや括り実演を見れば「絞りのとりこ」になりますよ。最近展示内容がリニューアルされ、以前にも増して分かりやすくインパクトあるものになりました。

展示は大きく3つのコーナーに分かれています。

「①絞り技法紹介」「②絞り道具と浮世絵」「③絞り作家岸野頼子作品展」です。

- ① 技法紹介では、有松絞りの誕生から発展の経過がよく分かる6つの技法が紹介されています。
- ② 道具は絞るための針を付けただけの器具から複雑なものまであります。
- ③ 大高出身で竹田耕三・早川嘉英両氏から指導を受けた岸野頼子氏の素晴らしい作品が所狭しと並べられています。

〔展示〕

蜘蛛入り柳絞り
嵐絞り
疋田三浦絞り
やたら三浦絞り
雪花絞り
手蜘蛛絞り



有松文芸のこみち③ 山村 幸雄

有松東海道沿いに歌碑が7基ある。今回は有松・鳴海絞会館前にある頼山陽の歌碑を紹介。

『売絹小市 枕隆坻 聞説英雄 此折旆 碧血爛斑 千載在 纈文染上 女兒衣
過有松邨 邨民粥撮 縫為業村 東即桶狭 山陽外史』

作者 頼 山陽 (らい さんよう、1780~1832)

売絹の小市 絹錦の絞を商うこの町
隆低に枕す 両側が起伏した谷間の村で
一夜を泊まった

聞説く英雄 織田・今川の合戦史を聞き
此に旆を折す 勝敗決して今川方は破れ
碧血爛斑 決戦の様相古戦場の姿は
千載に在り 永久に書き残されている。
纈文染上ぐ 九九染めの古文書を知り
女兒の衣 優雅な衣料を見た

有松邨ヲ過ニ 有松の村を通り歩くと
邨民粥デ撮 村人は縫い絞を手業とし
縫村ノ業ト為ス 村の産業となっている
東即チ桶狭 村の東端に桶狭間がある

山陽 外史印

《 頼山陽とは？ 》

江戸時代後期の歴史家、思想家、漢詩人、文人。幼名は久太郎、名は讓、字は子成。山陽、三十六峰外史と号した。主著に「日本外史」がある。



〔歌が詠まれたいきさつ〕文化10年(1813)、頼山陽が京から江戸に向かうとき、蒔絵師である山本春正(井桁屋の親戚筋)から井桁屋に泊まっていきなさいと勧められ、宿泊した時の詩歌である。

桶狭間合戦の話をして家人から聞き、町の風景に心打たれ扇面に書きしるしたもので、その扇はいまだ保存されており、その写しは井桁屋の店内に飾られている。(服部豊氏談)

平成14年3月6日、有松絞商工協同組合が創立50周年記念事業として、扇の写しを歌碑に拡大し、絞会館入口に設置した。

催事・行事の予定

- 1月10日(日) 09:00 成人式(二部制) 有松中学校 緑区役所(有松・桶狭間・南陵三学区)
- 1月14日(金) 07:30 東町秋葉社左義祭 東町秋葉講 区政協力委員会
- 09:00 左義長 有松天満社 文嶺講
- 1月16日(日) 17:00 文嶺講総会 絞会館
- 1月17日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 1月23日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 1月24日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン



発行者: 竹田嘉兵衛 (有松まちづくりの会 会長)

編集者: 加藤 明美 (有松まちづくりの会 広報部員)

HP: pegasus@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索